

報告タイトル「コロナ問題が世界経済に与えた影響と今後の展望—スローバリゼーションの局面と関連させて」

氏名 石田修 所属 九州大学大学院経済学研究院

キーワード（3つ程度）：①デジタル化 ②無形資産指向的企業 ③デジタル空間の分断  
要約（Abstract）

#### 1. 新型コロナ問題が想定されている業界・機能等に与えたインパクト

需給両側面のショックから世界経済を停滞させた。多国籍企業の環境と関連すると4側面がある。1. 人の移動遮断、生産停止、モノの移動停滞のなかで、サプライチェーンが寸断。2. 生産システムを支える長期資金フロー（直接投資、プロジェクトファイナンス）の停滞。3. 短期的安定リスクは抑えられ、資産価格は維持、実物経済との乖離が存在。4. Covid-19によるデジタル化(DX)のモーメント。

#### 2. 想定されている多国籍企業の対応方策・取り組み

企業の2分類。無形資産（金融資産）指向的企業は、短期的影響を相対的に受けていない。しかし、デジタル空間の分断の背後にある2つの制度（資本主義と国家主義）への対応が必要となる。有形資産指向的企業は、デジタル関連財分野とその他財分野では、市場展望が異なる。デジタル関連企業の成長は見込まれるが、制度対立によりサプライチェーンの再構築が必要となる。他の企業は、財政出動により市場はかろうじて支えられているが、サプライチェーン再構築とともに、新常态における市場対応戦略が求められる。

#### 3. 今後の展望

基調はスローバリゼーションであり、そのなかでデジタル空間の分断が進んでいることを忘れてはならない。つまり、Covid-19は短期的な不確実性で有り、長期的な傾向であるスローバリゼーション・デジタル化の基調のなかでの、デジタル空間の分断（財を活用することで得られる価値（コト）を創造するプラットフォームに係わる対立、データ活用の方法の対立、プラットフォームが依拠する制度「デジタル・民主主義」と「デジタル・レーニン主義（Heilmann）」があり、これまでのような効率性を突き進めたグローバリゼーション環境は変容する。。

#### 4. これからの研究テーマ

デジタル空間拡張・成長は、プラットフォーム形成を通じた価値獲得、エコシステムを基盤とした富創造、そして、デジタル空間・無形資産を活用したネットワーク形成（重層的補完関係、レイヤー関係と組織間関係というガバナンス階層性）として、多国籍企業活動に大きく影響している。この基調のインパクトとともに、デジタル空間分断と covid-19 という2要因が与える企業活動の制度基盤の変化を複合的に関連づけた分析が必要である。